


2022年度 ▶ 2031年度  
日立市総合計画

共創で新たな歴史を刻む  
次世代型みらい都市 ひたち

General Plan of Hitachi City







## ごあいさつ

日立市長 小川 春樹



本格的な人口減少・少子高齢社会の到来や頻発する大規模な自然災害、そして新型コロナウイルス感染症のパンデミックによる社会経済活動への影響など、今日の社会情勢はかつてないほど急激に変動し、本市が直面する課題も複雑化・多様化しています。

先行きの見えない、予測困難な時代にあっても、本市のまちづくりにおける様々な課題を克服し、全ての世代の方が生き生きと輝く、安心と期待に満ちたまちづくりを進めるため、市政運営の新たな羅針盤として「日立市総合計画（令和4～13年度）」を策定いたしました。

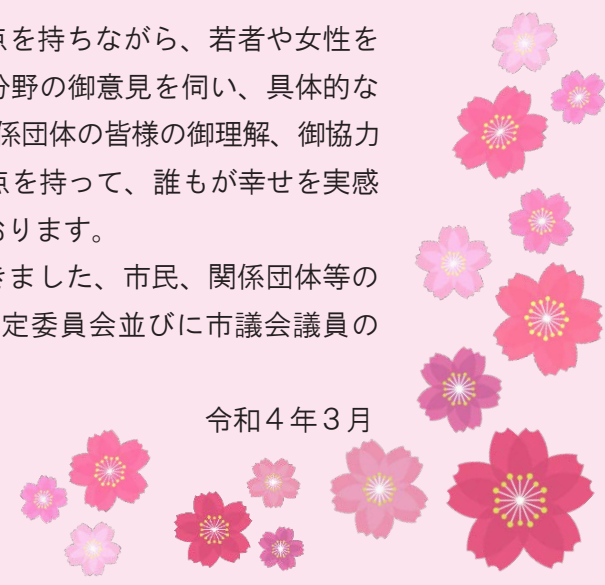
本計画では、不確実性の増す現代こそ、本市のまちづくりの普遍的な理念である市民の平穏な「暮らし」、仕事・産業などの「まちの活力」、地域力などの「ひたちらしさ」、それらを形作る「人」に立ち返り、逆境を更なる成長へのチャンスと捉え、明るい未来を切り拓くための基本理念として「安心とやさしさにあふれるまち」、「活力とチャレンジにあふれるまち」、「ひたちらしさがあふれるまち」を設定するとともに、本市の目指すべき将来都市像として「共創で新たな歴史を刻む次世代型みらい都市 ひたち ～人づくり・まちづくり・そしてみんなの幸せづくり～」を定めました。

また、「人財充実」、「産業強化」、「未来都市」、「魅力・地域力強化」の4つのプロジェクトを柱とする「ひたち成長戦略プラン」を設定し、将来のまちづくりに向けた人財の育成を始め、雇用や起業支援、脱炭素社会の実現、デジタル化の推進などに、全庁一丸となって戦略的に取り組むことで、将来にわたって活力のあるまちの実現を目指してまいります。

さらに、本計画の策定に当たっては、総合的な視点を持ちながら、若者や女性を始め、多くの市民や関係団体等の皆様から、幅広い分野の御意見を伺い、具体的な検討を重ねてまいりました。本計画に基づき市民や関係団体の皆様の御理解、御協力をいただきながら、共に手を携え、より多角的な視点を持って、誰もが幸せを実感できるまちづくりに取り組んでまいりたいと考えております。

結びに、これまで貴重な御意見や御提案をいただきました、市民、関係団体等の皆様を始め、熱心な御審議を賜りました総合計画策定委員会並びに市議会議員の皆様、心から感謝を申し上げます。

令和4年3月



## 目次

日立市の概要 ..... 1

### 第Ⅰ編 ◆ はじめに

1 計画策定の趣旨 ..... 5

2 総合計画とは ..... 5

3 総合計画の構成と期間 ..... 6

4 総合計画策定の視点 ..... 7

5 日立市総合計画と  
第2期日立市まち・ひと・しごと創生総合戦略との関連性 ..... 11

6 県計画における位置付け ..... 12

### 第Ⅱ編 ◆ 基本構想

1 社会の潮流 ..... 15

(1) 新型コロナウイルス感染症の影響(新たな感染症等への対応) ..... 15

(2) 本格的な人口減少時代の到来 ..... 16

(3) 超高齢社会への対応 ..... 17

(4) 安全・安心への危機意識の高まり ..... 18

(5) 脱炭素社会の実現に向けた取組 ..... 19

(6) 持続可能な開発目標(SDGs)の推進 ..... 20

(7) Society5.0実現に向けたDXの推進 ..... 21

(8) 急速に進む産業構造の変化 ..... 22

(9) 地域共生社会の実現に向けた取組 ..... 23

(10) 子どもたちが「生きる力」を育むための教育 ..... 24

(11) 自治体経営の転換 ..... 25

<b>2</b>	本市を取り巻く現状と課題	26
	(1) 人口減少問題・地方創生への対応	26
	(2) 医療・福祉、介護施策等の充実	27
	(3) 安全・安心のまちづくり	28
	(4) 教育と文化の振興	29
	(5) 産業の振興	30
	(6) 都市基盤と市街地の整備	31
	(7) 循環型社会の形成に向けた取組	32
	(8) 協働とデジタル化による持続可能なまちづくり	33
<b>3</b>	まちづくりの基本理念	34
<b>4</b>	将来都市像	35
<b>5</b>	基本構想の期間	36
<b>6</b>	将来人口	36
<b>7</b>	施策の大綱	37

### 第Ⅲ編 ◆ 基本計画

<b>1</b>	基本計画の役割	51
	(1) 基本計画の役割	51
	(2) 基本計画の期間	51
<b>2</b>	ひたち成長戦略プラン	52
	(1) 基本的な考え方	52
	(2) 分野横断的に取り組むべき課題	53
	(3) ひたち成長戦略プランの全体像	55
	(4) ひたち成長戦略プランの4つのプロジェクト	57
	・人財充実プロジェクト ～まちの未来を担うアクティブ・パーソンズ戦略	57
	・産業強化プロジェクト ～次代の産業をリードするイノベーション・シティ戦略	67
	・未来都市プロジェクト ～豊かな暮らしと活力が持続するサステイナブル・シティ戦略	73
	・魅力・地域力強化プロジェクト ～リスクをチャンスに変えるリカバリー戦略	79
	(5) 総合計画における「6つの大綱」と「ひたち成長戦略プラン」の関連性	87
<b>3</b>	計画の進行管理	88
	(1) PDCAサイクルによる進行管理	88
	(2) 外部（第三者）評価による透明性の確保	88

<b>4 施策</b> .....	89
(1) 大綱・施策の体系図 .....	89
(2) 各施策の構成と見方 .....	91
<b>大綱1 福祉・医療 「健やかに生き生きと暮らせるまち」</b> .....	95
施策1 出会いから結婚、妊娠、出産、子育てまでの切れ目のない支援（子ども福祉） .....	97
施策2 明るく活力ある長寿社会の構築（高齢者福祉） .....	103
施策3 尊重し合い、共に生きる社会の実現（障害者福祉） .....	109
施策4 地域全体で支え合う福祉の推進（地域福祉・地域共生） .....	113
施策5 市民の健康と暮らしの安心を支える医療の充実（地域医療体制等） .....	117
施策6 人生100年時代を見据えた健康づくり（健康づくり） .....	123
<b>大綱2 教育・文化 「未来を拓く人と多様な文化を育むまち」</b> .....	127
施策1 「生きる力」の育成と学習環境の向上（学校教育） .....	129
施策2 大学等との連携による将来を担う人材の育成（高等教育等） .....	135
施策3 学びの機会の充実と地域・家庭の教育力向上（生涯学習） .....	139
施策4 多様な文化・芸術の推進（文化・芸術） .....	143
施策5 青少年の健全育成の推進（青少年育成） .....	147
施策6 誰もが親しめるスポーツの推進（スポーツ） .....	151
施策7 多文化交流の推進と平和の継承（都市交流・平和） .....	155
<b>大綱3 産業 「多様な活力があふれる産業のまち」</b> .....	159
施策1 競争力のあるものづくり産業の振興（工業） .....	161
施策2 生活に寄り添う商業機能の維持・充実（商業） .....	165
施策3 持続可能な農・林業経営の支援（農・林業） .....	169
施策4 持続可能な水産業の振興（水産業） .....	173
施策5 物流ネットワーク拠点の更なる活用（物流） .....	177
施策6 産業集積の機能強化と企業立地の促進（産業立地） .....	181
施策7 魅力ある資源をいかした観光の振興（観光） .....	185
施策8 多様な働き方の推進と就業支援（創業・雇用・労働） .....	189
<b>大綱4 都市基盤 「都市環境が充実した魅力あるまち」</b> .....	193
施策1 誰もが安心して住み続けられる活力ある市街地の整備（市街地整備） .....	195
施策2 安全・安心・快適な暮らしと都市の活力を支える道路整備（道路交通体系） .....	199
施策3 人と環境にやさしい公共交通体系の構築（公共交通体系） .....	203
施策4 緑豊かで快適な都市空間の創出とさくらによるまちづくり（公園緑地・さくら） .....	207
施策5 気候変動による水害リスクを軽減する河川・水路の整備（河川・水路） .....	211
施策6 質の高い住環境の整備（住環境・定住） .....	215
施策7 安全で安定した上下水道サービスの提供（上下水道） .....	219

大綱 5	生活環境 「自然と調和した安全・安心のまち」	223
施策 1	自然との共生と脱炭素社会の推進（自然環境の保全と創造）	225
施策 2	環境にやさしい社会の形成（ごみ・資源）	229
施策 3	消防・救急・救助体制の充実・強化（消防・救急）	233
施策 4	災害に強いまちづくりの推進（防災・減災）	237
施策 5	日常生活における安全・安心の確保（防犯・交通安全）	241
施策 6	多様化する墓地需要等への対応（墓地・葬祭場）	245
大綱 6	協働・行政経営 「みんなで創る持続可能なまち」	249
施策 1	持続可能なコミュニティ活動（コミュニティ活動）	251
施策 2	市民の多様な活動と支え合いのまちづくり（市民の多様な活動）	255
施策 3	企業、大学等との連携・協働（産学官連携）	259
施策 4	誰もがかがやける社会の形成（男女共同参画・若者応援・多文化共生）	263
施策 5	市民と市政をつなぐ広聴と戦略的な広報（広聴広報・シティプロモーション）	269
施策 6	効率的で持続可能なまちづくり（デジタル化・行財政運営）	273

## 第IV編 ◆ 資料編

1	策定経過	279
2	策定体制	280
3	市民意向把握のための取組	286
4	SDGsと基本計画の関係	305
5	目標指標一覧表	307
6	用語解説	310

（文章中の右上に※のある用語を解説しています。）

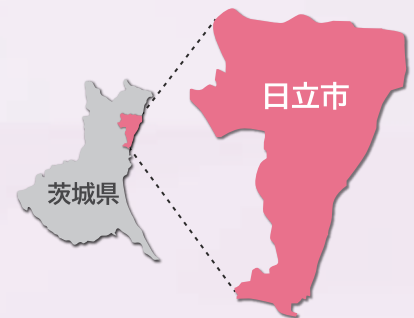


# 日立市の概要

Overview of Hitachi City

## 地勢

- 日立市は、関東平野の北端、茨城県の北東部に位置し、南北 26.3 km、東西 17.9 km、面積は 225.71 km<sup>2</sup>を有しています。
- 南北に長い市域を縦貫するJR常磐線、国道6号、常磐自動車道などを軸とした交通ネットワークが整備され、東京圏から近く、交通条件に恵まれた地域です。
- 人口は17万1,223人（2022（令和4）年1月1日現在）で、水戸市、つくば市に次いで県内3番目であり、市中心部に世界的企業などの工場群が広がる国内有数の工業都市として発展してきました。
- 人口や都市機能、産業の集積を背景として、周辺自治体から本市へ、2万人を超える方々が通勤・通学する茨城県北部の中心都市となっており、広域的な拠点性を持っています。
- 市南部に位置する茨城港日立港区は、北関東の海の玄関口として、「完成自動車の輸出入」を中心に多様な物流需要に対応するとともに、近年では、日立LNG（液化天然ガス）基地の稼働に伴って、首都圏を支えるエネルギー供給拠点としての重要性が更に高まっています。



## 自然・気候

- 東には太平洋に面した風光明媚な海岸線が広がり、西には阿武隈山地の支脈である多賀山地が連なる地形によって、夏は涼しく、冬は温暖で、四季を通じて寒暖の差が少なく、過ごしやすい気候です。
- 県北で一番長い33 kmの海岸線には、6つの海水浴場があるほか、伊師浜国民休養地内には、鶺鴒地にウミウを供給するための、全国で唯一の捕獲場があります。
- 産業の発展過程で発生した煙害問題に対し、自然環境を回復するために桜の植栽に取り組んできたことから、市内随所で市の花「サクラ」を見ることができ、中でも「かみね公園・平和通り」は、日本のさくら名所100選に選ばれています。

## 市の花、木、鳥、さかな

### 市の花／サクラ



ひたちの「ひ」の文字が5枚の花びらを構成するデザインです。市民が手と手をつなぎあい、市の花として大切に守り育てていくことを表現しています。



### 市の木／ケヤキ

日立市民の暖かくしかも力強い腕の輪によって、市の木を永遠に保存する意味をこめたものです。また日立の文字も抽象的にデザイン化されています。



### 市の鳥／ウミウ

太平洋から立ち昇る大きな太陽を全身に浴びて、輝いている市の鳥「ウミウ」の姿をデザイン化しました。



### 市のさかな／さくらダコ

大きくて、元気な「さくらダコ」をイメージに、デザイン化しました。

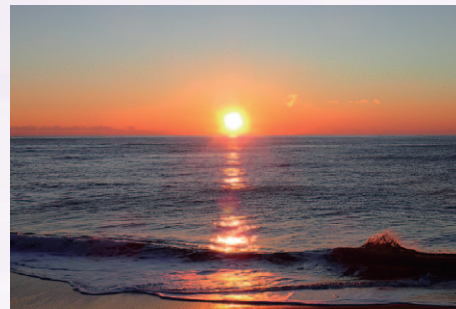


## 歴史

「日立」の地名は、水戸黄門として有名な水戸藩二代藩主の徳川光圀公がこの地を訪れ、「日の立ち昇るところ領内一」と称えたという故事に由来すると言われています。

本市の歴史は、明治時代後期の日立鉱山開発に始まり、その後、同鉱山の電気機械の修理工場が独立し、世界的な企業へと成長を遂げるとともに国内有数の「ものづくりのまち」として発展してきました。

2004（平成16）年には、地域の更なる発展と住民福祉の向上を図るため、十王町と合併し、現在の市域が形成されています。



### ～市制施行後のまちの歩み～



① 日立市誕生



② 日立シビックセンターと新都市広場



③ 日立風流物  
(ユネスコ無形文化遺産)



④ 津波による浸水（河原子周辺）



⑤ JR日立駅

- 1939年（昭和14年） 日立町と助川町が合併し、日立市が誕生 ①
- 1945年（昭和20年） 太平洋戦争の戦火により市街地の多くが焼失
- 1951年（昭和26年） 平和通りが開通（街路樹として桜を植樹）
- 1955年（昭和30年） 多賀町、日高村、久慈町、中里村、坂本村、東小沢村を編入合併
- 1956年（昭和31年） 豊浦町を編入合併
- 1957年（昭和32年） かみね動物園がオープン
- 1959年（昭和34年） 日立港が開港（現在の茨城港日立港区）
- 1965年（昭和40年） 群馬県桐生市と国内親善都市提携
- 1985年（昭和60年） 常磐自動車道が日立北インターチェンジまで開通
- 1990年（平成2年） 日立シビックセンターがオープン ②  
日本のさくら名所100選に「かみね公園・平和通り」が認定
- 1991年（平成3年） 助川町の森林火災で約217haの林野が焼失
- 1993年（平成5年） 旧日立鉱山の煙突が倒壊
- 2001年（平成13年） 国道6号日立バイパスが開通
- 2004年（平成16年） 山形県山辺町と国内友好都市提携  
多賀郡十王町と合併し、現在の市域が形成
- 2009年（平成21年） 日立風流物がユネスコ無形文化遺産\*に登録 ③
- 2011年（平成23年） 東日本大震災発生 ④  
JR日立駅自由通路・橋上駅舎がオープン ⑤
- 2017年（平成29年） 池の川さくらアリーナ ⑥、日立市役所新庁舎がオープン ⑦
- 2018年（平成30年） JR大甕駅自由通路・新駅舎がオープン
- 2019年（令和元年） 新交通（ひたちBRT\*）第Ⅱ期区間本格運行開始  
市制施行80周年
- 2020年（令和2年） 旧公設市場跡地にシー・マーク・スクエアがグランドオープン  
新型コロナウイルス感染症の拡大により、緊急事態宣言発令
- 2021年（令和3年） 日立シビックセンター科学館「サクリエ」がリニューアルオープン



⑥ 池の川さくらアリーナ



⑦ 日立市役所新庁舎



日立市総合計画

---

# 第I編



# はじめに

令和4年度～令和13年度

2022▷2031

---

General Plan of Hitachi City

# 1 計画策定の趣旨

本市はこれまで、2012(平成24)年度から2021(令和3)年度までの10年間を計画期間とする「日立市総合計画」を策定し、「基本構想」に「生活未来都市・ひたち」を将来都市像として掲げるとともに、その実現を図るための施策を「基本計画」に位置付けることで、計画の着実な進捗を図ってきました。

この間、平成から令和へと時代が移り変わる中において、未曾有の被害をもたらした東日本大震災からの復興を成し遂げるとともに、地方創生への積極的な取組などにより、県北における中心都市として、将来都市像の実現に向けたまちづくりを進めてきました。

一方で、本市においては、依然として、人口減少・少子高齢化の進行や激甚化・頻発化する自然災害の克服が喫緊の課題となっているほか、国が推進している脱炭素社会の実現やデジタル化への対応などの新たな課題にも直面しており、目まぐるしく変化する社会情勢への的確な対応が求められています。

特に、100年に一度の危機と言われる新型コロナウイルス感染症のパンデミック※は、世界規模で社会経済活動に甚大な影響を及ぼしていますが、同時に、これまでの人々の価値観や生活様式に至る、様々な分野にわたって大きな変化をもたらしたほか、新型コロナウイルス感染症の収束後には、「アフターコロナ社会」といわれる新たな社会の到来が予見されています。

このように、時代の大きな転換期にあっても、本市が、困難な課題を更なる成長の糧に変えて、これを力強く克服し、将来にわたって、安全・安心で持続可能なまちであり続けることができるよう、2022(令和4)年度から2031(令和13)年度までの10年間におけるまちづくりの方向性を定めた新たな総合計画を策定しました。

# 2 総合計画とは

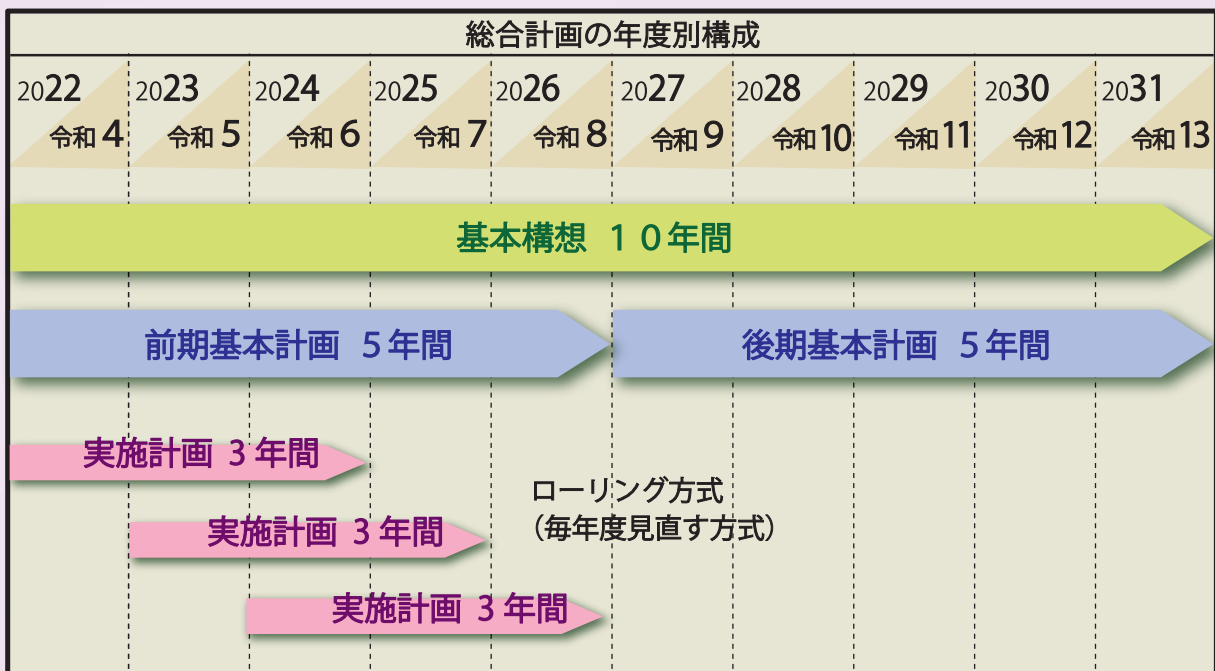
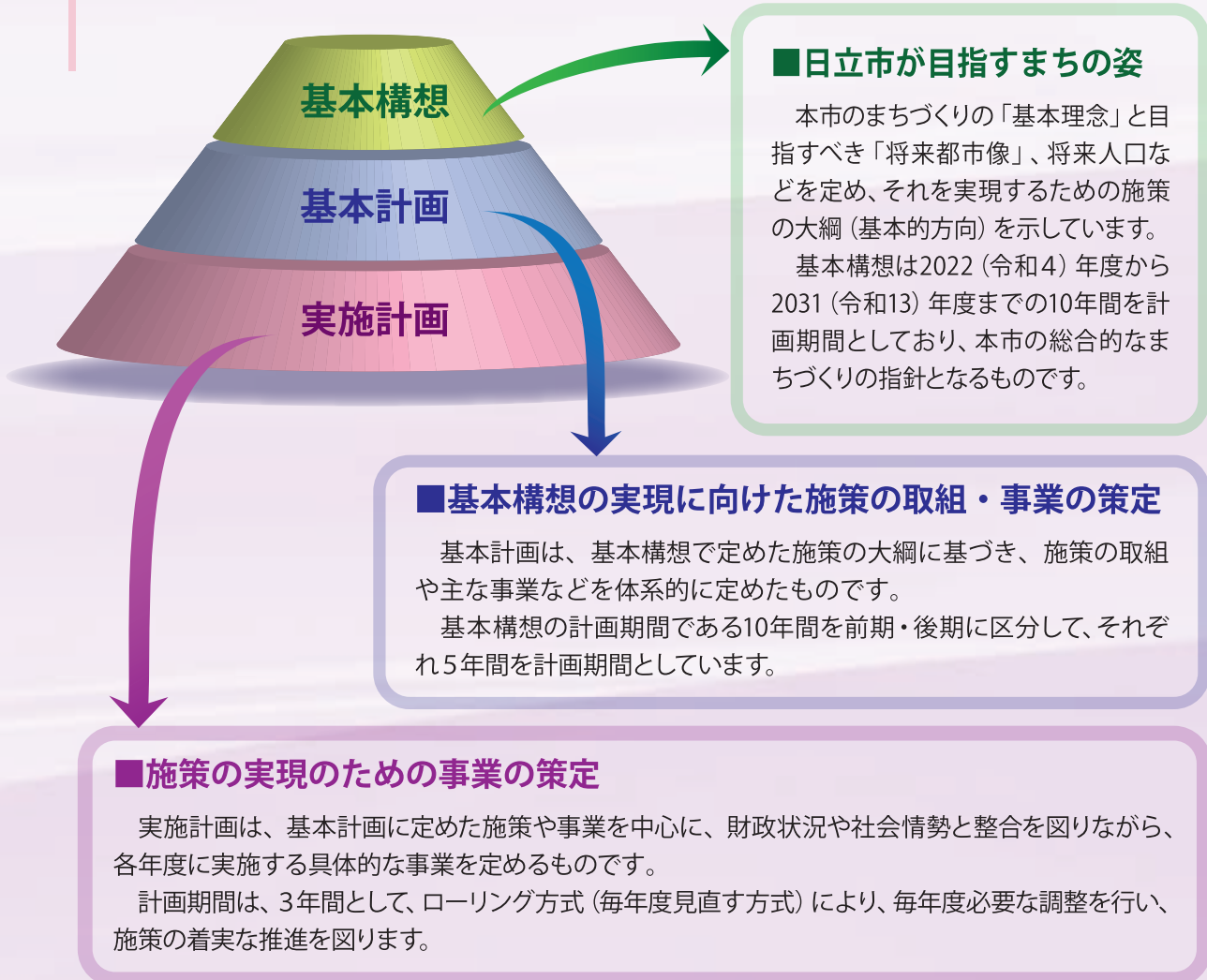
総合計画は、本市行政における最上位計画であり、中長期的な視点から、まちづくりの方向性を示したものです。

この度、策定した総合計画は、本市のまちづくりの基本理念や目指すべき将来都市像、施策の大綱(基本的方向)を示した「基本構想」、中長期的に取り組む施策や事業を体系的に定めた「基本計画」、各年度に実施する事業を定めた「実施計画」から構成されています。

市民の日々の暮らしに関わる様々な行政サービスの提供を始め、福祉・医療や教育・文化、産業、都市基盤、生活環境、協働・行政経営などに関する取組についても、総合計画に定めたまちづくりの方向性や大綱・施策の体系に沿って、各種の個別計画が策定され、具体的な事業の推進が図られています。

### 3 総合計画の構成と期間

総合計画は、「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」の3層で構成されています。



## 4 総合計画策定の視点

総合計画の策定に当たっては、次の4つの視点を持って策定しました。

### 視点 1. 市民との協働を具現化する計画

市民と行政が本市の課題や目標を共有し、協働によるまちづくりを進めていくため、若者や子育て世代、コミュニティを始め、広く市民と対話する機会を設け、意見を反映させるとともに、学識経験者や各種団体の代表者などで構成された策定委員会において、計画策定に必要な審議を行い、市民の視点に立った、分かりやすい計画としました。

### 視点 2. 中長期的視点から、分野横断的な取組により施策の重点化を図る計画

人口減少・少子高齢化の進行への対応や激甚化・頻発化する自然災害の克服に引き続き取り組むとともに、脱炭素社会の実現やデジタル化の推進、アフターコロナ社会への対応など、時代の大きな転換期を迎える中、誰もが安心して豊かに暮らせる未来を築くため、中長期的視点に加え、「大綱・施策」の垣根を越えた、分野横断的な取組を推進することで、施策の重点化を図りました。

### 視点 3. 「ひたちらしさ※」をいかす計画

本市は、現在も製造業が市内総生産を支え、100年を超える歴史を誇る「ものづくりのまち」であるとともに、県北地域の中心都市として、地域全体の生活と産業を支える役割を担っています。

また、海や山などの豊かな自然環境と恵まれた温暖な気候に加え、市民と企業が共に力を合わせて煙害を克服した、「自然と産業の調和を実現した歴史」を象徴する大煙突、ユネスコ無形文化遺産に登録された「日立風流物」など、私たちの身近なところに、自然や歴史などの誇るべき地域資源があり、人に伝えたいストーリーがあります。こうした「ひたちらしさ」をいかし、磨き上げることのできる計画としました。

### 視点 4. SDGsの方向性と合致した計画

SDGsの「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指すという理念は、本市の総合計画の目指す方向性と一致することから、総合計画の着実な推進を図り、本市の抱える様々な分野の課題の解決に向けた取組を進めることが、ひいては、SDGsの理念の実現に寄与するものと考えられます。

そこで、本計画においては、SDGsとの関連性がより分かりやすくなるよう、基本計画の施策ごとに関連性の高いSDGsの目標をアイコンで示しています。

## 視点 1.

■コミュニティ単会へのグループインタビュー



■大学生へのグループインタビュー



■策定委員会での審議



## 視点 2.

■新たな感染症の脅威

■脱炭素社会の実現

■自然災害の激甚化・頻発化

■デジタル化の推進



## 視点 3.

■日立さくらまつりと日立風流物



■かみね公園



■茨城港日立港区



## 視点 4.

持続可能な開発目標（SDGs）とは、国際社会が抱える課題を2030（令和12）年までに解決するために、2015（平成27）年9月の国連サミットで採択された17の目標（ゴール）のことです。



# 日上市総合計画とSDGs（コラム）

## SDGs（エス・ディー・ジーズ）とは？



持続可能な開発目標（SDGs）は、貧困や不平等・格差、気候変動などの様々な問題を根本的に解決することを目指す、世界共通の17の目標と169のターゲットからなるものです。

すべての人々にとってよりよい世界を作るため、世界各国は、すべての人や私たちの地球にとって最も重要な目標について話し合いました。そして、若者や子どもを含む多くの人々や組織が協力し、17の持続可能な開発目標（SDGs）が決められました。

### SDGsが掲げる17の目標

 <p>1 貧困をなくそう</p>	<p>Goal 1</p> <p>《貧困をなくそう》</p> <p>あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ</p>
 <p>2 飢餓をゼロに</p>	<p>Goal 2</p> <p>《飢餓をゼロに》</p> <p>飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する</p>
 <p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	<p>Goal 3</p> <p>《すべての人に健康と福祉を》</p> <p>あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する</p>
 <p>4 質の高い教育をみんなに</p>	<p>Goal 4</p> <p>《質の高い教育をみんなに》</p> <p>すべての人に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する</p>
 <p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p>	<p>Goal 5</p> <p>《ジェンダー平等を実現しよう》</p> <p>ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る</p>
 <p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>	<p>Goal 6</p> <p>《安全な水とトイレを世界中に》</p> <p>すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する</p>
 <p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>	<p>Goal 7</p> <p>《エネルギーをみんなに そしてクリーンに》</p> <p>すべての人に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する</p>
 <p>8 働きがいも経済成長も</p>	<p>Goal 8</p> <p>《働きがいも経済成長も》</p> <p>すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）を推進する</p>



<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p> 	<p><b>Goal 9</b> 《産業と技術革新の基盤をつくろう》</p> <p>強靱なインフラ*を整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る</p>
<p>10 人や国の不平等をなくそう</p> 	<p><b>Goal 10</b> 《人や国の不平等をなくそう》</p> <p>国内および国家間の格差を是正する</p>
<p>11 住み続けられるまちづくりを</p> 	<p><b>Goal 11</b> 《住み続けられるまちづくりを》</p> <p>都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする</p>
<p>12 つくる責任 つかう責任</p> 	<p><b>Goal 12</b> 《つくる責任 つかう責任》</p> <p>持続可能な消費と生産のパターンを確保する</p>
<p>13 気候変動に具体的な対策を</p> 	<p><b>Goal 13</b> 《気候変動に具体的な対策を》</p> <p>気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る</p>
<p>14 海の豊かさを守ろう</p> 	<p><b>Goal 14</b> 《海の豊かさを守ろう》</p> <p>海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する</p>
<p>15 陸の豊かさを守ろう</p> 	<p><b>Goal 15</b> 《陸の豊かさを守ろう》</p> <p>陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る</p>
<p>16 平和と公正をすべての人に</p> 	<p><b>Goal 16</b> 《平和と公正をすべての人に》</p> <p>持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する</p>
<p>17 パートナースHIPで目標を達成しよう</p> 	<p><b>Goal 17</b> 《パートナーシップで目標を達成しよう》</p> <p>持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化</p>

## 日立市総合計画とSDGsの関係

SDGsの前身であるMDGs\*は、開発途上国のための目標であったのに対し、SDGsは、「誰一人取り残さない」ための世界各国に共通する普遍的な目標であり、本市としても積極的に取り組んでいくべき内容になっています。

そこで、日立市総合計画前期基本計画では、計画を推進することによって達成に貢献できるSDGsの17の目標について整理し、施策ごとに特に関連性の高いSDGsの目標をアイコンで示しています。

ミレニアム開発目標 (MDGs)  
2000~2015

持続可能な開発目標 (SDGs)  
2016~2030

\*国際社会が直面している困難に対して、国際社会全体が2015年までの達成を目指す開発分野における国際社会共通の8つの目標。目標には極度の貧困と飢餓の撲滅、初等教育の完全普及の達成、乳幼児死亡率の削減、妊産婦の健康の改善、環境の持続可能性確保などがあり、その下には、具体的目標を設定したターゲットや指標などがある。

# 5 日立市総合計画と第2期日立市まち・ひと・しごと創生総合戦略との関連性

「日立市総合計画」は、中長期的な視点からまちづくりの方向性を示すものであり、本市が取り組む全ての施策の方向性がまとめられています。

一方、2020（令和2）年3月に策定された「第2期日立市まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、「日立市人口ビジョン」に掲げた目標人口である「2040（令和22）年の人口14万人の維持」を目指すため、特に人口減少克服と地方創生に主眼を置いた施策の体系化を図り、関連する施策を連携させながら、重点的に推進していくためのものです。

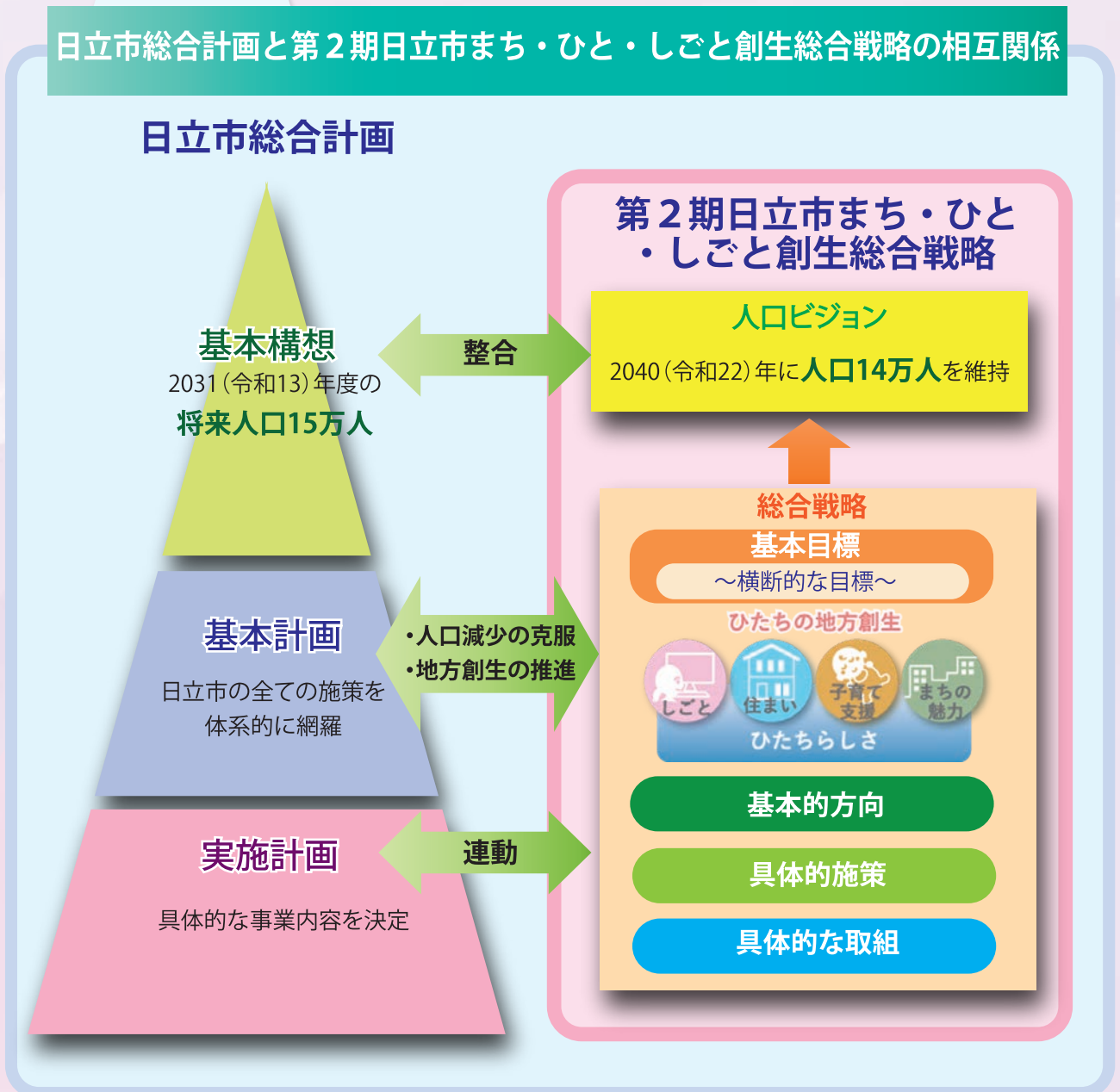


日立市総合計画



第2期 日立市まち・ひと・しごと創生総合戦略

## 日立市総合計画と第2期日立市まち・ひと・しごと創生総合戦略の相互関係



# 6 県計画における位置付け

茨城県は、2022（令和4）年3月に県政運営の基本的指針となる「第2次茨城県総合計画～「新しい茨城」への挑戦～」を策定しました。その計画において、本市が位置する県北地域について、「現状と課題」を踏まえ、2050（令和32）年頃を展望とした「目指す将来像」を、次のように位置付けています。

## 県北地域の現状と課題

### 現状

県北地域は、臨海部と山間部でその特徴が異なり、臨海部は鉄道、高速道路、港湾などの交通基盤が整備されている一方、山間部は久慈川、那珂川などの清流、八溝山系に連なる山並みの豊かな緑など、多様な自然環境に恵まれています。

### 課題

直近5年間でも人口減少が一層進むとともに、県内5地域の中で高齢化も最も進行しています。地域の活力を維持していくためには、広域交通ネットワークを整備し、交流人口の拡大を図ることが必要です。また、臨海部において、集積するものづくり産業の競争力を強化し、地域を牽引する事業者の成長を促進するとともに、山間部において、地域特性をいかした農林水産業や観光の振興が求められています。



出典：第2次茨城県総合計画～「新しい茨城」への挑戦～

2022

## 県北地域を目指す将来像

2050

- 産業・観光の発展や交流促進の基盤となる広域交通ネットワークの整備により、豊かな自然環境をいかした観光、移住・二地域居住や、地域の歴史、芸術、伝統文化をいかした多彩な交流が活発に行われ、ゆとりと潤いのある魅力的な地域となっています。
- 地域を支える人材の育成や地域外からの人材活用が図られ、主体的な地域づくり活動が展開され、活力があり持続可能な地域として発展しています。
- 臨海部においては、地域を牽引する事業者が成長するなど地域産業の競争力等の強化により地域経済が活性化し、雇用が創出されるとともに、山間部においては、環境に配慮した有機農業等の取組や林業の成長産業化に加え、地域資源を活用した観光との連携が進み、付加価値の高い農林水産業が展開されています。



出典：第2次茨城県総合計画～「新しい茨城」への挑戦～